



## 徳川家光はなぜ参勤交代を定めたの

### 大名の力を弱めた

参勤交代とは、関東の譜代大名は半年ごとに、その他の大名は1年おきに交代して、江戸に住まなければならない制度です。大名が、国元と江戸との間を行き来するときは、たくさんの家来をつれていましたので、大名行列といわれる、長い行列を組みました。行列の人数は、大名の石高（領地の米の生産高）が高いほど多く、加賀100万石の前田家の行列の人数は、4000人もいたそうです。こんなに多い人数が、何日も、または何十日もかけて、旅をするわけですから、それにかかる宿代・食費などの費用は、たいへんな額になりました。また、江戸での生活にかかる費用は、国元にいるときよりも、多くかかりました。幕府は、これらの方法で、大名を貧しくさせ、幕府にはむかう力を、なくさせていったのです。

### 将軍と大名の主従関係を確認させた

大名は、国元にいるときは、いちばん身分が高い人ですから、家来におじぎをされ、いばっていることができます。しかし、江戸では、決められた登城日に、江戸城へ入って、将軍におじぎをしなければなりません。このことは、将軍と大名の関係も、主人と家来の関係であり、家来は主人に従わなくてはならないことを、大名に改めて意識させるという目的をもっていました。（監修・田代 脩）

